

政策群別ワーキンググループにおける委員の指摘事項

【第 1 回】文化資源を活用した付加価値創出（観光等）

開催日時：令和 2 年 8 月 21 日（金）14：00～16：00

出席委員：生駒委員、大橋委員、河島委員、キャンベル委員、土屋委員、名越委員、日比野委員、松井委員

1) 文化財多言語解説整備事業

…訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元な言語解説を整備する事業

<委員のコメント>

- ・コロナの影響で旅行者が減少した今、外国人旅行客の満足度や成果指標に関して、見直しが必要ではないか。【松井委員】
- ・また訪れたいと答える人の割合という指標は、今回の旅はよかったが、日本にまた来られるかどうかわからない、と考える人もいるから、来日観光客の満足度の指標としてはあまり有益ではない、と観光学の分野では指摘されている。【河島委員】
- ・個別のコンテンツを 1 つのストーリーにまとめ上げていくことが必要で、その観点で多言語解説整備事業の枠組みを作っていく必要がある。【土屋委員】
- ・ストーリーを物語る人間が必要。（例えば中国語は中国人学生が実際に旅をした経験を踏まえて解説する）【土屋委員】
- ・日本語でも分かりにくいものを英語に直訳しても、外国人は理解できない。ストーリーを掘り起こす人、書く人、編集する人が必要。【キャンベル委員】
- ・多言語化だけでなく今生きている地域の人が納得できるような取組のためのマニュアルを作成した。観光庁で公開している。【キャンベル委員】【生駒委員】

2) 日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信

…訪日外国人旅行者の旅行前の情報発信の充実、地域での体験・滞在の満足度の向上、再訪へ結びつけるため、先端技術を駆使して日本の歴史・芸術・伝統的な文化財や風景な発信する事業

<委員のコメント>

- ・日本人も知らなかったような文化の魅力は日本人向けの発信もすべき【生駒委員】【河島委員】
- ・さらに粒度の高いデータがとれるはず。ビューア一数や滞在期間といった情報から利用率や、どのような行動変容があったのかを測ることができると思われる。それがさらに政策

立案のサイクルに生かせるのではないか。【大橋委員】【名越委員】

- ・ 文化財デジタルコンテンツダウンロードについては、より対象言語が増えるとよい。【名越委員】
- ・ 旧来の文化財や観光地だけでなく 新しい観光地や文化の発展を促すような試みが必要【土屋委員】
- ・ 現在の技術や ネット環境を使えば、かつてのリトルトーキョーのように、世界のいろいろなところで日本の文化を味わうことができるのではないか。【日比野委員】
- ・ 中国の人は 日本の農村の美しさに感動している。これもひとつの文化だと思う。【土屋委員】

3) Living History (生きた歴史体感プログラム) 事業

…文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組 (Living History) を支援することなどにより、文化財の活用による地域活性化の好循環の創出を行う事業

<委員のコメント>

- ・ Living History 事業は、訪日外国人観光客だけでなく、地域住民を含めた多くの人々の参加協力の下、実施されていくもの。日本人自身、あるいは、地域の方々に一緒に盛り上げていけるような仕組みが必要。【松井委員】【生駒委員】【キャンベル委員】
- ・ 全体の観光客、観光業、あるいは、地域の 経済活動に直結しないかもしれないような文化財の保全とのバランスを考えるべき。必ずしもお金の問題にならないように。【キャンベル委員】
- ・ 海外の観光客にとって日本に来る大きな目的になっているアニメとか漫画とか、そういうものは文化資源の中に入っていないのか。観光のモチベーションには繋がらないのか。【土屋委員】

【第2回】文化芸術による共生社会の実現

開催日時：令和2年9月4日（金）10：00～11：30

出席委員：生駒委員、石田委員、河島委員、キャンベル委員、小林委員、土屋委員、日比野委員、松田委員、湯浅委員

1) 障害者による文化芸術活動推進事業

…「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に基づく国の基本的な計画に沿って、鑑賞の機会の拡大・創造の機会の拡大・作品等の発表の機会の確保など、障害者による文化芸術活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進事業に取り組む。

<委員のコメント（※便宜的に5分類）>

①関心を持たせる工夫

- ・「関心がない」方が多いのは、障害がある・なしに関わらず、何か対策を取る必要がある
【キャンベル委員】【湯浅委員】【土屋委員】
- ・コロナ禍において障がい者のデジタルアクセスの格差が、彼らを文化芸術に関心をもてる環境から遠ざけている可能性がある。【キャンベル委員】

②指標の改善点

- ・どれだけアクセスビリティが向上していったのかとか、そういったことを指標の中に設定してモニタリングをすることもできるのではないか【湯浅委員】
- ・「障害のある方の鑑賞機会の増加」「創造機会の増加」「発表機会」それぞれについて現状分析が十分にできていない印象【湯浅委員】
- ・文化庁の事業のこれが目指す目的、アウトカムは何なのかということを明確にした方がいい【湯浅委員】
- ・個別の事業から一步上の目線で、障害がある方の芸術活動の参加というものが、基本計画が推進されてからどう変化したのか、ということモニタリングする仕組みが政策部会で考えられないか。【湯浅委員】

③支援する人材の育成

- ・「福祉として提供」ではなく「個性を開く」事業を展開するため、自治体で「障害者による文化芸術活動推進に関する法律」に基づいた計画を策定・推進することは重要。【小林委員】 【石田委員】
- ・グッドプラクティスを他の地域でも普及させるべき。【小林委員】
- ・障害のある方の芸術活動に対して、ロジックモデルを作成すべき。外国の事例を知っているので資料を提供できる。【湯浅委員】
- ・障害者の方々を啓発する、プラス、その才能を開花させるような働きをされている方をロールモデルとして紹介・応援していくのは重要。【生駒委員】
- ・この分野とその外側の人間とをつなぐ通訳の役割をする人間が必要【日比野委員】

④障がい者の芸術が果たす役割

- ・アウトサイダー・アートは三重県の志摩市のアトリエ・エレマン・プレサンのように進んだ試みがなされており、支援が必要。【生駒委員】【日比野委員】
- ・「障がい者」ではなく「チャレンジド」、「ギフテッド」のように、通常の健常者には備わっていない感覚を持っている方々ととらえ、社会の中で彼らとその芸術の果たす役割を考えるべき。【生駒委員】【日比野委員】

⑤その他

- ・美術館を訪れる際にも、健常者には思いつかないようなハードルがいくつも存在する。そうしたもののへの配慮が必要。【河島委員】

【第3回】日本語教育の振興

開催日時：令和2年9月7日（月）14：00～15：30

出席委員：石田委員、河島委員、小林委員、名越委員、松田委員

1) 地域日本語教育の総合的な体制づくりの推進

…関係機関等と有機的に連携しつつ行う、日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを推進するため、都道府県・政令指定都市が実施する日本語教育環境を強化する取組を支援する。

2) 日本語教室空白地域解消の推進等

…日本語教室が開催されていない地域に居住する外国人に日本語を学ぶ機会を提供するため、日本語教室を開催したいと考えている市町村に対し、アドバイザーを派遣し日本語教室が開設できるよう支援等する。

<委員のコメント（※2事業併せて）>

- ・日本語教育で検索しても文化庁のHPがヒットしない【小林委員】
- ・HPは対応言語を増やしてもアクセス数が増えないと効果が出ない。アクセス数も踏まえて政策評価をみていくとよい。【松田委員】
- ・外国人が多い地域でも、自治体の日本語教室の内容が充実していないところがある。外国人はどの地域にも住んでいるはずで、もっと自治体が積極的にこの事業に取り組んでほしい。【小林委員】
- ・重要なのは「コーディネーター」の役割。経験値が高く、地域の状況を把握したうえで、ニーズとその対応に必要なことまで含めてコーディネートできる人を育てるべき。【石田委員】
- ・測定指標として日本語教育実態調査からデータを採ることは、政策評価やフォローアップのために有効。【松田委員】
- ・日本の全ての市町村、特別区において、日本語教室が何%ぐらい設置されているのかということと、外国人の数が数千人以上あるいは比率が何%以上のところにおいて日本語教室がどれだけ置かれているのか、その2つの数字を使うべき【松田委員】
- ・グッドプラクティス、ベストプラクティスを組み合わせることが重要【松田委員】
- ・日本語教室のある市町村が半数以上の都道府県の割合で100%は難しいので、目標値とは別に歩留まりはどこかで必要かもしれない。【名越委員】